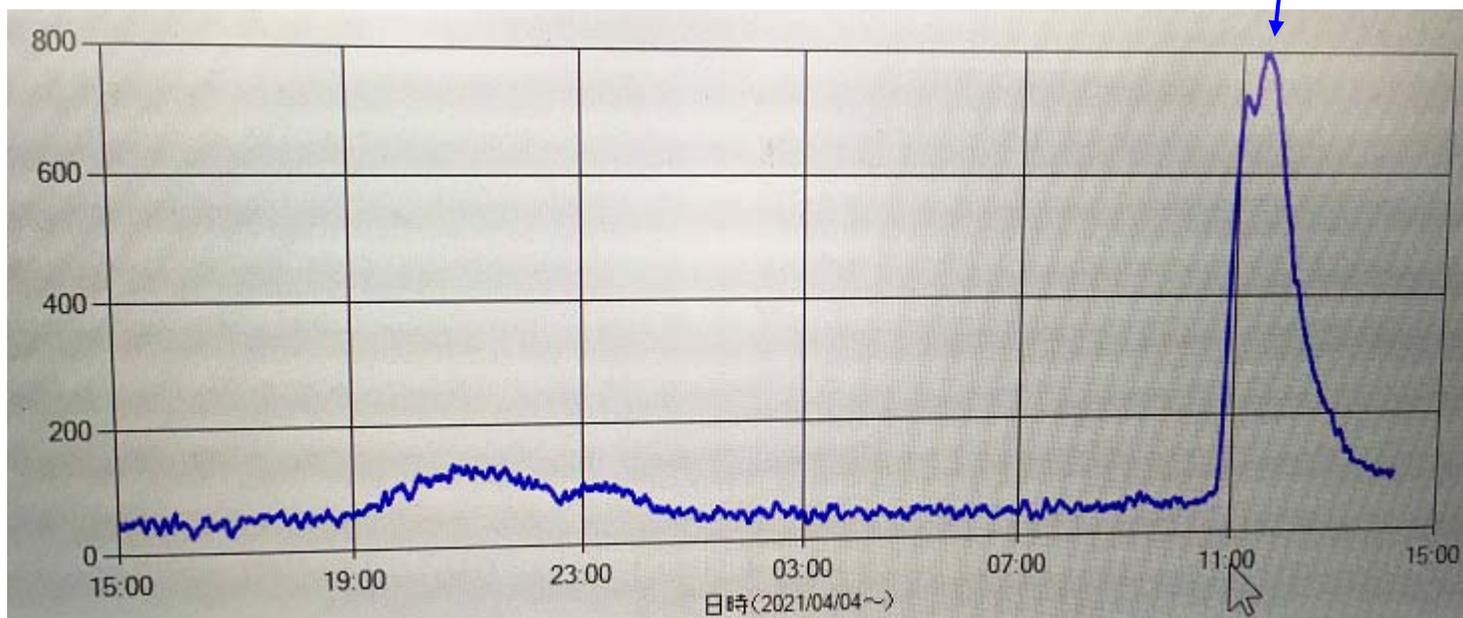


- 3月2日に物揚場排水路に設置している簡易放射線検知器（PSFモニタ）にて高警報が発生して以降、PSFモニタ指示値について、監視を強化しておりますが、本日（4月5日）午前11時20分、降雨の影響により、物揚場排水路に設置しているPSFモニタの指示値が、高警報設定値の1,500Bq/Lに対して、一時的に750Bq/Lを超えたことから、念のためサンプリングを実施しました。
- サンプリング試料の分析結果については以下の通りです。
(採取時刻：午後0時00分)
 - ・セシウム134：検出限界値未満（検出限界値：0.58Bq/L）
 - ・セシウム137：8.3Bq/L
 - ・全ベータ：37Bq/L
 - ・鉛214：4.6Bq/L（測定時刻：午後0時58分 半減期補正未実施）
 - ・ビスマス214：8.5Bq/L（測定時刻：午後0時58分 半減期補正未実施）なお、PSFモニタは、午前11時29分に800Bq/Lの最大値を示しておりますが、それ以降は指示値が下降し、現在は平常値を示しております。
- また、敷地境界連続ダストモニタ、構内連続ダストモニタ、モニタリングポスト等には有意な変動は確認されておられません。
- 物揚場排水路に設置しているPSFモニタの指示値が一時的に750Bq/Lを超えた理由は、β線の値を確認できる弁別型PSFモニタにおいて全ベータの値が低いことから、空気中の天然核種（鉛、ビスマス）が降雨に伴い地表面に降下し、当該排水路へ移行したものと推定*しており、引き続き監視を継続するとともに、3月2日に当該排水路で警報が発生した原因の調査を行ってまいります。
*天然核種（鉛、ビスマス）の半減期は20～30分と短いため、PSFモニタ指示値の降下
が早いものと考えられます。

【参考】物揚場排水路におけるPSFモニタ放射能濃度

最大値800Bq/L (4月5日午前11時29分)
(参考：高警報値1,500Bq/L)

ベータ+ガンマ放射能濃度 (Bq/L)



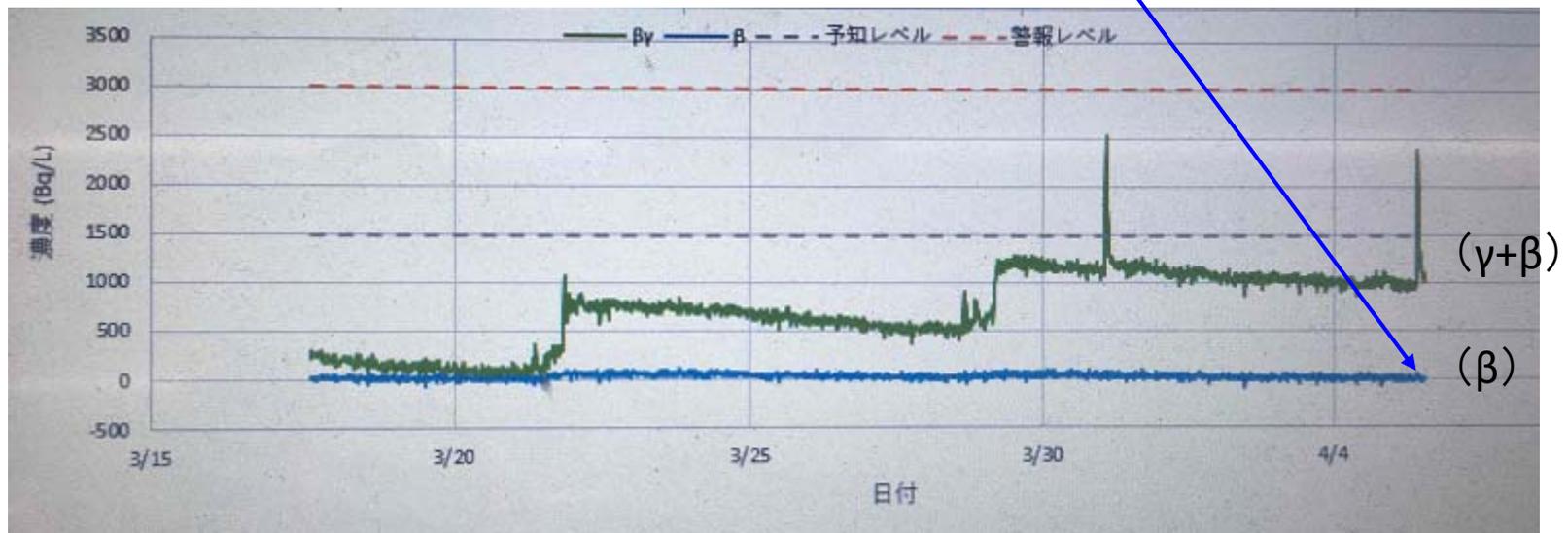
4月4日

4月5日

【参考】物揚場排水路における弁別型のPSFモニタ放射能濃度

ガンマ+ベータの値は上昇しているがベータの値は上昇していない

ベータ+ガンマ放射能濃度 (Bq/L)

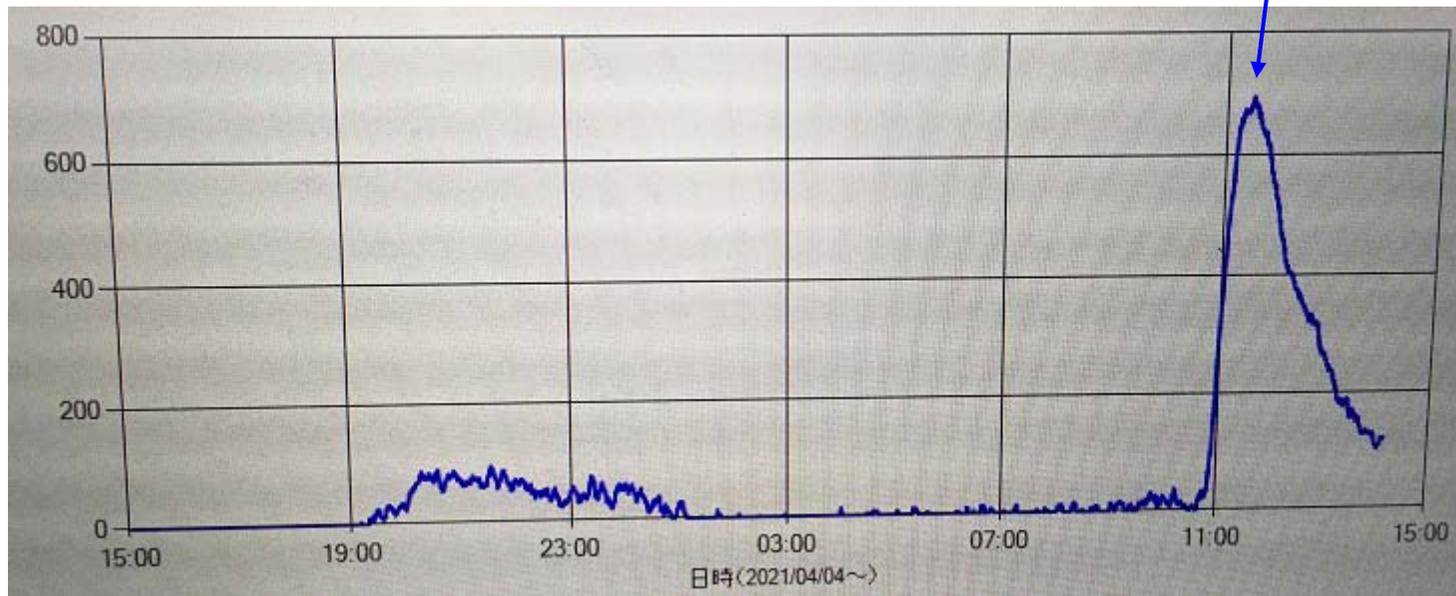


【参考】 他の排水路におけるPSFモニタ放射能濃度

最大値690Bq/L (4月5日午前11時29分)
(参考：高警報値1,500Bq/L)

A排水路

ベータ+ガンマ放射能濃度 (Bq/L)



4月4日

4月5日

物揚場排水路と同様のトレンドを示しており、降雨による天然核種の影響が生じたものと推定